

市民の皆様への緊急の訴え
「**ごみ減量先進都市**」へ、ともに挑戦しましょう。

平成 11 年 2 月 18 日

この度、不燃ごみ・焼却灰の次期埋立処分場として予定していた名古屋港西 1 区埋立事業を中止することといたしました。快適で清潔な市民生活の確保と自然環境の保全、これらの両立をいかにして図るべきか、熟慮に熟慮を重ねた末の苦渋の決断です。

決断を終えた今、新たな埋立処分場の確保と徹底的なごみ減量という二つの大きな課題に直面しています。あと 2 年少々、平成 13 年度の初めには愛岐処分場が一杯になると見込まれる一方、旧南陽工場の操業停止など、埋立・焼却の両面で処理能力の限界を迎えているからです。新たな埋立処分場の確保については、国・県などのご協力を仰ぎながら、今、名古屋市の全力をあげて取り組んでおります。一方、徹底的なごみ減量については、市民・事業者の皆様のご協力なくしては達成できません。

本市は、30 年ほど前にも深刻なごみ問題に直面しました。当時はごみの 7 割を埋め立てていたからです。この時は、可燃ごみの全量焼却という機械力によって乗り切りました。しかし、埋立処分場を市内に求めることのできなくなった今日、いよいよ、ごみを出さないライフスタイルの確立という根本的な課題に、正面から向き合わなくてはなりません。

ごみ減量の基本は、二つしかありません。一つは、ごみの原因を減らすこと、もう一つは、リサイクルを進めること、この二つです。

名古屋市は、空きびん・空き缶収集の全区実施、プラスチック製容器包装の分別収集などのリサイクルシステムづくりに全力を注ぐとともに、市民による資源回収活動への支援、事業系ごみの全量有料化などごみ減量の動機づけの強化、そして、一事業者として自らの出すごみの徹底的な削減に取り組めます。

市民の皆様に対して、率直にお願いします。チャレンジ 100 を実践して下さい。すぐごみになるものは買わない、勇気をもって断る、リサイクル商品を選ぶ、分別とリサイクルマナーを守る、それをお願いします。そして身近な方と協力して、どんなささやかなことでも結構ですから、新しいリサイクルのネットワークづくりに取り組んで下さい。

事業者の皆様に対して、率直にお願いします。事業活動に伴うごみの削減と再資源化はもとより、すぐごみになるものを作らない、売らない、買わせない、そして 20 世紀型大量廃棄社会を克服する創造的な挑戦者として、企業ノウハウを注ぎこんで下さい。

従来の名古屋市の取り組みに対して様々なお叱りをいただいております。そんなに大変ならなれどもっと早く訴えなかったのか、そんなご意見もいただいております。率直に申し上げて担当者は、出されたごみを処理するという職務に対して実に律義に取り組んできたと思います。しかし、実状を率直に市民にお伝えし、大胆にご協力をお願いするという点で名古屋市全体として大変な遠慮があった、そう感じております。

そうした反省を踏まえて切にお願いいたします。あと 2 年、今世紀のうちに少なくとも 20 万トンのごみ減量を実現し、バブル期以前のごみ量に減らしたいのです。そのために、市民・事業者の皆様のご協力と創造的な取り組みを、切に切にお願い申し上げます。

そして新しい世紀を、「ごみ減量先進都市」としてともに迎えようではありませんか。